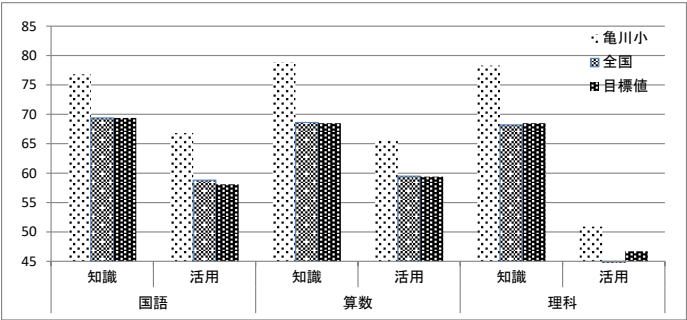


令和7年度 大分県学力定着状況調査結果(5年生)4月実施

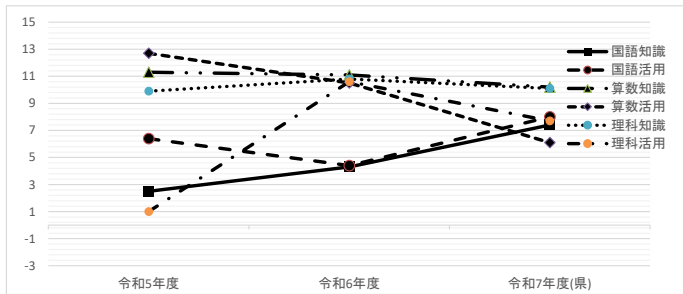
平均正答率	国語		算数		理科		
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	
亀川小	76.8	66.8	78.8	65.6	78.3	50.9	
全国	69.4	58.8	68.6	59.5	68.2	43.2	
目標値	69.4	58.1	68.5	59.4	68.5	46.7	差の平均値
全国との差	7.4	8	10.2	6.1	10.1	7.7	8.3



《正答率の経年変化》・・・全国との差(同一児童)

亀川小	国語		算数		理科	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用
令和5年度	2.5	6.4	11.3	12.7	9.9	1
令和6年度	4.3	4.4	11.1	10.5	10.8	10.6
令和7年度(県)	7.4	8	10.2	6.1	10.1	7.7

別府市学力調査(1月)3年生  
別府市学力調査(1月)4年生  
大分県学力調査5年生



全ての教科で全国平均正答率を上回った。特に、算数と理科の知識は10ポイント以上上回っていることから、昨年度までの学習内容が定着している状況がある。

問題の内容別正答率では、3教科全てにおいて県平均・全国平均を上回る結果であった。ただ、国語の「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均より10.9ポイント、「調べたことをもとに文章を書く」は3.8ポイント下回った。

「我が国の言語文化に関する事項」は「灯台もと暗し」の意味をもとに、正しく文例を選ぶという問題である。児童が選択した解答番号の割合からは、「灯台の下は暗くなる」と捉えて解答している割合が多かった。

「調べたことをもとに文章を書く」は、①身近で気になったことを調べて「調べたきっかけ」「調べて分かったこと」「まとめ」に分けて書かれている文章に、別の資料を加えるとすればどこがよいかという問題と、②文章から筆者の言いたいことを読み取り、決められた文字数にまとめて空欄に当てはまる文章を書く問題である。①は「調べて分かったこと」という項目を根拠にして選んだ解答が多かった。②は無回答はいなかったものの、条件を含めて正しく書けた割合が少なかった。

上記のことから、5年生には慣用句(ことわざや四字熟語など)に慣れ親しむこと、それぞれの段落や場面ごとの内容や相互関係を捉えることが必要であると言える。言葉を知ることや文の内容を正しく読み取することは、全ての教科の確かな理解につながるため、国語を中心に授業の中でより丁寧に扱っていきたい。